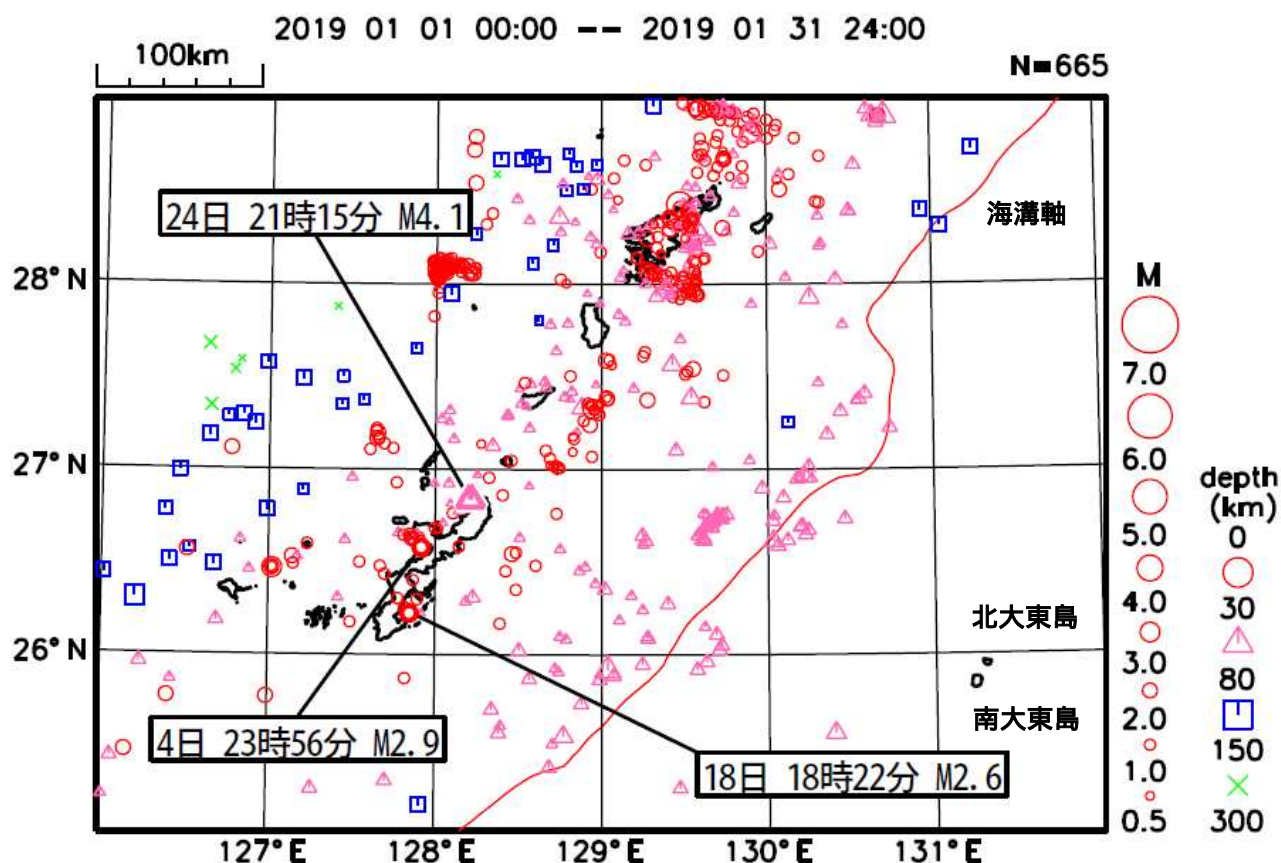


地震活動図

2019年（平成31年）1月

南大東島地方気象台

震央分布図



震度1以上を観測した地震を吹き出しで示しています。

図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ

N：地震回数（マグニチュード0.5以上の回数です）

[概況]

今期間に、大東島地方及び沖縄本島地方とその周辺（図の範囲内）で観測した地震は665回（12月651回）で、このうちM4.0以上の地震は5回（12月3回）でした。なお、沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震は3回（12月3回）、大東島地方で震度1以上を観測した地震はありませんでした（12月0回）。

4日23時56分に沖縄本島近海で発生した地震（M2.9、深さ14km）により、宜野座村で震度1を観測しました。

18日18時22分に沖縄本島近海で発生した地震（M2.6、深さ14km）により、南城市で最大震度2を観測したほか、沖縄本島中南部で震度1を観測しました。

24日21時15分に沖縄本島近海で発生した地震（M4.1、深さ45km）により、国頭村、今帰仁村、恩納村で最大震度2を観測したほか、鹿児島県沖永良部島から座間味島にかけて震度1を観測しました。

大東島地方、沖縄本島地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (期間: 2019 年 1 月 1 日 ~ 31 日)

震源時 各地の震度	震央地名	緯 度	経 度	深 さ	規 模
2019 年 01 月 04 日 23 時 56 分 沖縄県	沖縄本島近海	26° 34.7' N	127° 55.0' E	14km	M2.9
震度 1 : 宜野座村宜野座 *					

2019 年 01 月 18 日 18 時 22 分 沖縄県	沖縄本島近海	26° 13.3' N	127° 50.8' E	14km	M2.6
震度 2 : 南城市知念久手堅 *					
震度 1 : 宜野湾市野嵩 *, 中城村当間 *, 西原町与那城 *, 与那原町上与那原 * 八重瀬町東風平 *, 南城市佐敷佐敷 *, 南城市大里仲間 *					

2019 年 01 月 24 日 21 時 15 分 沖縄県	沖縄本島近海	26° 50.1' N	128° 12.6' E	45km	M4.1
震度 2 : 国頭村奥, 国頭村辺土名 *, 今帰仁村仲宗根 *, 恩納村恩納 *					
震度 1 : 名護市豊原, 名護市港 *, 大宜味村大兼久 *, 東村平良 *, 本部町役場 * 宜野座村宜野座 *, 金武町金武 *, 伊江村東江前 *, 伊平屋村我喜屋, 伊平屋村役場 * 伊是名村仲田 *, 宜野湾市野嵩 *, 沖縄市美里 *, 中城村当間 *, 座間味村座間味 * うるま市石川石崎 *, うるま市与那城平安座 *					
鹿児島県	震度 1 : 知名町瀬利覚, 与論町茶花 *				

* の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。

資料中のデータについて

この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

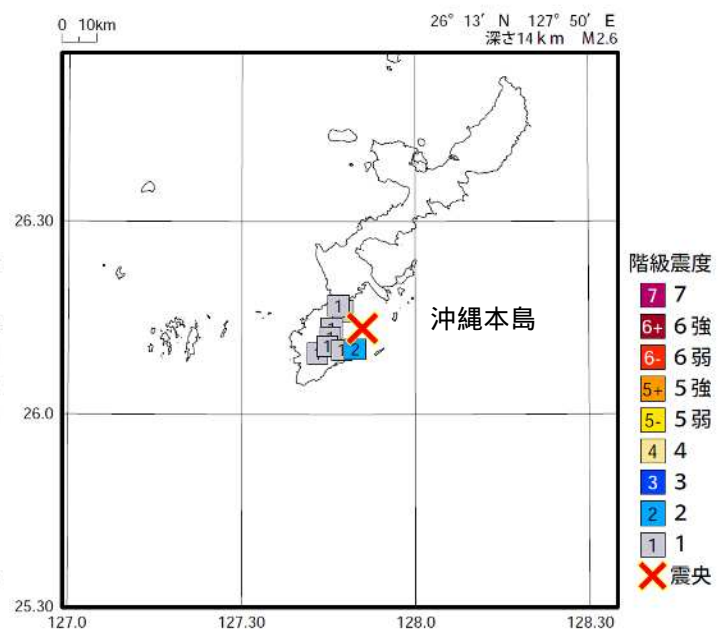
データについては精査により、後日修正することがあります。

大東島地方、沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の震度分布図

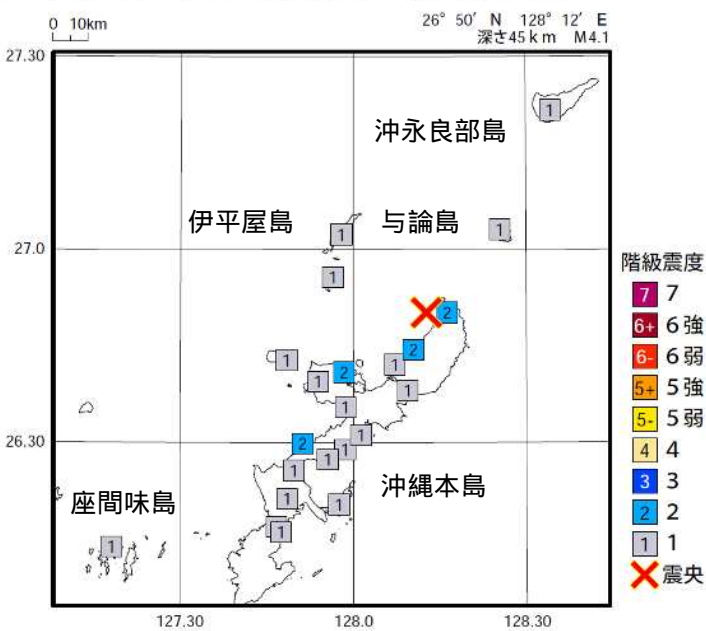
2019年 1月 4日23時56分 沖縄本島近海の地震の震度分布図



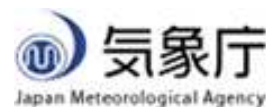
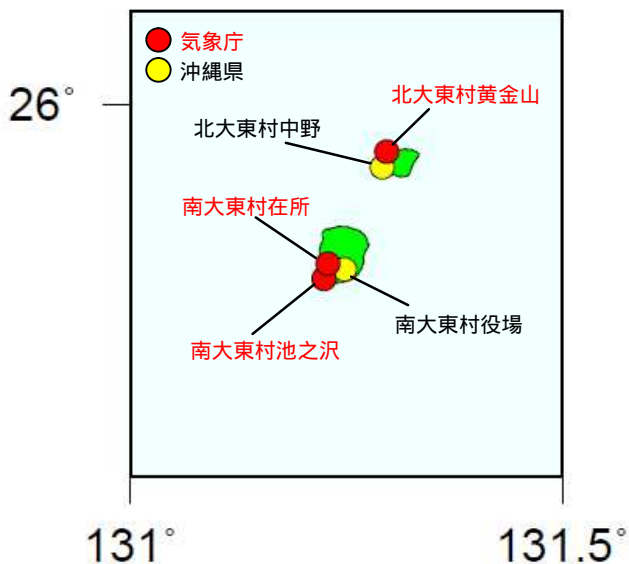
2019年 1月18日18時22分 沖縄本島近海の地震の震度分布図



2019年 1月24日21時15分 沖縄本島近海の地震の震度分布図



大東島地方の震度観測点



本件に関するお問い合わせ先

(南大東島地方气象台)

電話 09802-2-2006

<https://www.jma-net.go.jp/daitou/>

津波から命を守る行動

日本列島に甚大な被害をもたらした「東日本大震災」から間もなく8年が経とうとしています。

この東日本大震災で、大津波に襲われた岩手県釜石市の子どもたちは主体的な避難行動によって自らの命を守ることができました。そこには、長年の防災教育により、自らの命を守る教えがしっかりと身につけていたことが示されています。

釜石市の子どもたちをお手本に、津波から命を守る行動について学びましょう。



津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(気象庁)の1シーン

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/anime.html

津波防災啓発ビデオのポイント

・津波のことを知って備えよう

津波の恐ろしさを知り、高台までの道を考えておきましょう。釜石市の子どもたちは訓練で逃げ方を何度も練習していたので、すばやく安全に逃げることができました。

・自分から進んで逃げよう

誰かが逃げると周りの人も逃げます。まず自分が逃げましょう。それが多くの人の命を救うことにもなります。釜石市では中学生がはじめに逃げたことで、小学生や近所のお年寄りも逃げ始めました。

・もっと安全なところまで逃げられないか考えよう

津波は思っているより大きいかもしれません。釜石市の子どもたちは一度高台に逃げた後もここなら大丈夫と安心せず、もっと高いところへ逃げました。はじめの高台はその後、津波に飲み込まれてしまいました。より高いところへと逃げ続けたことで命を守ることができました。

私たちの住んでいる沖縄地方は周りを海に囲まれており、地震・津波に対しての備えが必要です。地震・津波は突然襲ってきますので、いざという時のための対策を考えておくことが大切です。津波から命を守る行動を忘れず、日頃の訓練や防災対策を通して、災害から自分の身を守る力を養いましょう。



地震に関する情報は
沖縄気象台ホームページまで

<https://www.jma-net.go.jp/okinawa/index.html>

沖縄気象台

検索

